

公園の待ち受け事業におけるネイチャーゲームの普及

青木 孝一

分野の今日的な概要

公園の魅力は、豊かな自然環境の他にも「あそこに行けば何か面白い体験ができる」という事業を充実させることも重要な要因である。公園と連携しながら活動していくことは、単にネイチャーゲームを普及するというだけでなく、様々な自然体験活動と組み合わせながら公園の魅力を引き出すことも忘れてはならない。

分野を理解するキーワードとその説明

公園は子どもからお年寄りまで様々な年齢層の人が自然とふれあうことのできる場所であり、様々な自然体験活動が行われている。ネイチャーゲームの活動を定期的に公園で実施し、地域住民に定着させることで環境教育に寄与していく。

事例の概要

公園との話し合いにより、環境教育の導入及びネイチャーゲームの普及を主な目的に7月より公園に遊びに来ている人を対象とした待ち受けの事業（ネイチャーゲームを中心にしたプログラム。事前のPRはなし）を実施していくことになった。

きっかけは、地域の会の活動とは別に個人的に「定期的にネイチャーゲームを実践できる場がほしい」と公園側に申し出たところ、年度の事業計画は既に決定しているため、予算（謝礼等）措置もなく、十分な広報もできないが、「事業がなく空いている日程なら可能」との返事であった。公園スタッフの中にもネイチャーゲームリーダーの資格をもっている職員もいたので、その職員の協力のもと、とりあえず、年度内に数回実施してみることになった。

事例の内容

●ねらい

公園に遊びに来ている人にネイチャーゲームの活動を通じて自然への気づきを深めていくとともに、実践を積み重ねていくことによりネイチャーゲーム指導員としてのスキルを向上させていくこと。

●実施アクティビティ

7月	8月	9月	10月	12月
コウモリとガ いねむりおじ さん 夜はともだち	はだしで歩こ う マイクロハイク 目かくしトレ イル	木のビンゴ めざせ名探偵 カケスとカラ ス	宝さがし 自然の紋 森のお弁当 箱	おおきな葉 っぱ 大地の窓 葉っぱの美 術館
15名参加	8名参加	7名参加	8名	14名

●参加者の反応

いつも来ている公園なのに自然の見方や感じ方が変わった。

季節の移り変わりが実感できた。

目かくしをすると視覚以外の感覚が敏感になる。

道具もいらないし、気軽に親子で楽しめる活動である。

分野におけるネイチャーゲーム実践のポイント

事前に計画された事業形態ではなく、「その日に公園に遊びに来ている人をターゲットにする待ち受け事業の形態としては初めての試みであった。できるだけ公園の魅力を引き出せるよう季節を意識したプログラムを計画した。

活動の評価

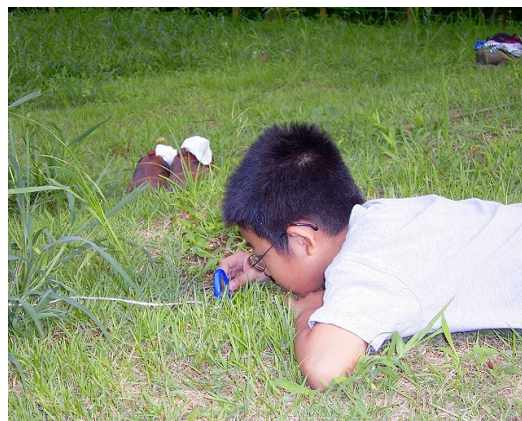
新しい試みである「待ち受け事業」を7月から5回にわたって実施してきたが、ネイチャーゲームの活動に興味を抱き、「次回いつあるの？」と日程を聞いて毎回楽しみに参加してくれる家族もできた。参加者は少ないながらも回を重ねるごとにネイチャーゲームの魅力や自然のおもしろさが伝わってきているようだ。

活動の課題

「定期的にネイチャーゲームを実践できる場がほしい」という私の要望と「公園に遊びに来ている人が楽しめる場を増やしたい」との思いが一致して実現できた待ち受け事業であるが、当然のことながら公園との連携・協力が必要不可欠となる。

参加者が少なくても待ち受け事業を継続させ、公園スタッフにもネイチャーゲームを指導していく楽しさや魅力を伝えていくとともに「あの公園に行けばいつでもネイチャーゲームができる」と地域住民に定着させていくことが重要である。

写真



「幼少期の自然体験活動を促進するために必要な、指導者養成のあり方を考える」

参考資料

特になし

今回関係した団体

県立公園